

### 幸五郎「えっ」も描く

店の隣、モスバーガーさんの二階に、昨年の四月から、共同作業所レストラン「采夢」がオープンしてなかなかはやっている。手づくりの五百円日替わりランチが、おいしくヘルシーである。ここの代表の猪狩さん、「幸五郎の七番目の愛人」と勝手に自称している。幸五郎がうまく利用されているだけの愛人関係だが、そんな言い方もいいじゃない。それがそれとして、その彼女なかなかバイタリテイがある。昨年、私の店に佐藤自恵さんという女性が訪ねて来て、伯母(彼女の)が絵を書き溜めているが、どこかで展覧会したい。ついてはいい場所がないか」と相談され、「隣の采夢さんの壁面を利用したら」という提案をした。猪狩さんも心よくOKしてくれ約二週間ここで岸野はなえさん八十三歳のオバーチャンの生まれて始めての展覧会がひらかれた。マスコミにのるなどして約百人の方がお見えになった。絵の方もよかったです。レストランも繁盛して、あげくの果て画集送付することになってしまった。大成功に終わった。この結果を見て、猪狩さんには「次は幸五郎さんの絵の展覧会をして」とたのまれた。四月。七十二歳の幸五郎の誕生日記念事業として、同じく「采夢」の壁面に約五十枚の絵をならべる事が出来ました。下手な絵をカバーするのには絵の下に絵を書いた時の背景や感想のコメントを入れました。つまり言い訳です。これを見て絵もいいが文章も面白いと好評でした。色紙には岡本太郎の「下手な絵はない、自分で書

いた絵が一番」と幸五郎がかきました。「ツカウイスキー工場、登米町の武家屋敷の門、ヨーロッパ旅行のスケッチ、評定河原の絵等とてもやさしい絵で幸五郎の気持ちが表現されていると好評でした。昨年は幸五郎新聞展、そしてこじは、絵の展覧会、さて次は何をするのかおたのしみ。

### 少年野球大会で

#### チンドンヤ 大成功

向かいの荒町小の父兄が中心になってもう何年にもなりますが、少年野球の指導をしています。ときどきのぞいて見えますが、ご父兄方々のボランティア活動には頭がさがります。この荒町小少年野球チームが主催して毎年一回、市内の少年野球の招待大会が行われます。会場は蒲生にあるひろい、ひろい、野球場です。荒町新鮮組では、毎年この大会に支援金を出しています。

さて、この大会の開会式についても招待を受けて、一言述べることになっていますが、例によってあたりまえの事を子供たちに云っても聞いてくれない。こどもの視線にしゃがんでお話ししないと効き目がなし。野球は勝つ事が大事、負けたら泣け」などとわめいたこともあった。こ数年はチンドンヤをつづけてきた。毎度同じではそれこそおもしろくない。今年はどうなアイディアにしようかと、こ一週間、正直云って悩んでいました。チンドンヤとバナナのたたき売りを組み合わせようとも思ったが、ちょっとシンドイ……。

さて悩みつつも当日、九日になってしまった。この日は大変なスケジュールがまっている。まず、町内の廃品回収日。これを片付けて、蒲生まで、七時半迄行かなくてはならない。廃品回収は

朝五時半に起きて私の割り当て分は順調にすんだ。次は、土樋にいる孫を迎えに行かなければならない。時計を見ながら、七時に着いたら三人のチンドンヤの団員、ワイワイ云いながら朝ご飯の最中、早くしろとも言えず、じいちゃん辛抱しながらなんとか車の中に押し込んだ。娘の直美ちゃんの運転する車の中で、孫たちとシナリオの打合せ。今朝のラジオで聞いた「今日は何の日」ということをネタの中心にすることにした。実はこの日は、「母の日」である。それに加えて「アイスクリームの日」だそう。なんでも、明治時代に東京で、ある洋菓子やさんが、はじめてアイスクリームを売った日だそうです。それに今日は「少年野球の日」ということ言う事にして三人の孫にその三つを振り分けました。

次女の和佳奈が母の日、「次男の海星(二歳)がアイスクリームの日」、最後に長男の航之助が少年野球の日」と決めて、車の中でリハーサルをしました。今日は何の日」とジイちゃんが何回もくりかえさせて、やっと着いたときはもう開会式ははじまっていた。着いたとたんにお世話をしているお母さんが駆け寄って来た。しまった、遅れてしまったのだ。それ急げ」と三人の孫にカネ、太鼓をもたせ、幸五郎はドラム、娘はアコディオ

ン持って走り出した。まさにグットタイミング危うくセーフ。オモチャのチャチャのリズムで行進。さあ車の中で云ったセリフちゃんと言えるか心配しているひまはない。ホームプレート迄五人でオモチャのチャチャで行進。まずあいさつをして、さて今日は何の日だった」と、和佳奈が「母の日」といった。私は「お母さんご苦労さん」という。次はチャイこと海星、「今日は何の日」「アイスの日」「チャイの大好物だ。最後に、航之助が少年野球の日」と堂々と云った。さすがオレの孫だ。会場からヤンヤの拍手がおきた。お母さん、お父さん審判の皆さんからも祝福を受けた。それにしても幸五郎、いい加減だ。始まる一時間前迄シナリオが決まっていなかった。まさにぶっつけ本番、綱わたりだ。孫たちも、ジイちゃんの名誉のため、うまく演じてくれた。帰りの途中で、「コンビでガリガリアイスを買ってやった。おだちゃん、これおしまい。

孫を自宅に届けて幸五郎は、一迫まで絵を描きに向かった。

### 幸五郎

#### 同窓会副会長を

#### 辞任する

幸五郎は記録が定かでないが十五年以上荒町小学校の同窓会の副会長を加藤会長を支えて勤めて来た。昨年は開講百二十周年記念事業が有り、会長を支えて無事終った。十一年前には、同様百二十周年があり、この時は荒町小学校という本の編集長として大活躍した。記念式典の時にはなぜか私の個人の名前を挙げて、当時の佐々木校長からえらくほめられた事が有った。百三十年の時は、百万円もかけて、校旗を新しくするという。私は反対だったが、皆がそうしたいといつので、好きにしないといつて、金は出したが、あまり

気分は乗りなかつた。

さて、加藤会長は百二十周年が終った時点から、会長を辞任したいといひ続けて来たが百二十年が終った昨年も同様の発言されておられた。私は副会長が会長に成るものと思つていたが、中々ご指名がないので、去る三月三十日辞表を小学校の教頭先生のもとへ提出した。同窓会の事業に未練はあつたが、ここが潮時と見て決断をした。考えて見れば高齢でもあるし、時々奇怪な行動をする幸五郎は会長にはふさわしくない。高遇な人格として見るには不資格である。

その後、どなたが会長に選ばれたか聞いていなかった。四月二十八日荒町小の先生方の歓送迎会によられました。私の隣に座つていたのがSさんという同窓会の理事でした。彼は元校長先生をされ私より一年先輩である。実は私が同窓会長になつたと自己紹介された。なるほど私は納得出来た。幸五郎は野におけレンゲの花である。

## 幸五郎

### 星空コンサートの 実行委員長に

今から十七年前のある朝、風呂に入りながら、毘沙門さんでクラシックコンサートがやれないものかと考え、商興会役員の全員の反対を押し切って実現させた。

そして、今年も世界的指揮者外山雄三氏を迎えて第十八回星空コンサートをすることに決まりました。私はかねがね、星空コンサートの実行委員長したかったのですが、中々させてもらえませんでした。皆さんには意外に思われますが、まさに一度もやつていません。どうも、おれにやらせると、変な事になると商店街の役員さんには、日頃思われているらしい。私はすでに1年

前から根気強く、おれにやらせろ」と露骨に組合に申し入れをして来ましたところ、今年には仙台フィルから早々と、「外山先生が自ら乗り込んで来る」といふ朗報が舞い込んで来ました。組合の会議を開いて外山さんに似合つのは幸五郎がうつつつけといふ事になつたらしい」と言うことでめでたく、実行委員長に就任する事になりました。

もつすでに今年のコンサートに対する抱負は色々持つていますが、基本的にはいい雰囲気、楽しい曲を外山さんのトークを聞きながら新しい仙台名物のコンサートにしたいと今からはりきつています。四月中には第一回目の会議を開きました。

さて、これと関係ないことですが、荒町小学校の同窓会の副会長を自ら辞表を書いてやめました。これまでも色々な会の役員をしてきました。黙つていようとズルズルといつまでも役員の肩書きがつきつぱなしになつていきます。今回、星空コンサートの委員長になつたり、同窓会の副会長をやめたりという事で、肩書きなどといつものは、何時までもつけておく物でなく時々整理するののも一つの方法といふ事が分りました。総会のシーズンです。皆さんも肩書きの見直しをなさつてみませんかと提案したいのですが、幸洋堂の社長、中倉の町内会長だけはやめたいが辞められない事情があります。もう少し人生もつづけなければなりません。若い若いとおだてないで下さい。すこしづつ老化が進んでおります。

### ケンカも売る幸五郎

#### 七十二歳

#### 幸五郎も年をとつた

四月二十五日、日曜日の昼下がりに。店番をしていたら、町内のある店やのあんちゃんが娘を連れてやつて来た。「リアンがな

いか」といふ。「あんちゃんには商品知識が無いからわかる訳がないだろ」と頭ごなしに私をバカにした言い方をして来た。日頃からこのあんちゃん、その言動に私をバカにする事を平気に言つた人間だったので、私は、見境もなく怒りを爆発させ、胸ぐらをつかんで、「年寄りをバカにするな」五十年も長い間、この道一筋にやつて来て、商品知識にケチをつけられてだまつて我慢出来なかつた。側に二年生の娘さんがいたが、あたりかまわず怒鳴つてしまつた。相手は意外と冷静だつた。でも町内の若者に長幼の順序をわきまえない商人が多いと、日頃から幸五郎は思つていふ。七十三歳と云えば高齢の年になつてははずだが、若い人からは、あまり評価のよくないおんあんに見られている。韓国では、年寄りを大事にしていて聞いているが、正の判断する冷静さを失つて来た自分が情けない。

## 幸五郎

### ずさんな人だつて

昨年、区役所のまちづくりコンペに参加して四十万円のところ半分に削られて、二十万をいただいた。荒町寺子屋で二回のコンサートをやり大成功でした。その勢いをバック今年もと、応募しました。荒町の詩子偉人作曲家、福井文彦さんを顕彰する「寺子屋を考えました。四月十九日。区役所でその審査がありました。学者や、偉そうな方々の前で恥ずかしながら、事業の内容を説明しました。五月十五日その結果が手紙で来ました。何と落選の報せでした。理由、計画がずさん、幸五郎はいい加減な人といふ評価でした。これで六回目の落選。変な所で、仙台一の記録になりました。もういい加減あきらめた方がいいよと娘にいわれました。されど、

まちづくりは、学者、役人がやるものでない。オレがやらねば誰がするのといいたい。

### 笑いの学会の人

#### 幸五郎に弟子入り

お店番をしていると、一日八十人のお客さんが来ます。ただ物のやり取りをするだけのコンビニのような店ではありませんので、いろいろな会話をします。だから、幸五郎はお店番が楽しいそんなある日「笑い学会」の仙台支部といふ名刺を持った女性が訪ねて来た。色々の学会があることは知つていた。例えば顔の学会、失敗の学会などで、どれも大学の先生が会長に成つていふところが多い。この女性はどこかで私がチンドンをやつていふことを聞いて、ぜひ弟子入りしたいといふ。話しを聞いて見ると若い頃は、私と同じようにシャイな人だつたが、いろいろ、つらい人生を経験しているうちに笑いの学会にたどりついたらしい。幸五郎も同様だが、昔からの「オタクもっこ」ではなかつた。お互いにあるきつかけで人生の途中で人格が突然変異し、人前で奇怪な行動を平気にするようになったところ、お店の中で話が盛り上がり、幸五郎は、はじめてチンドンやの弟子をとる事になりました。早速六月から授業をはじめめる事にしました。月謝はいくら払ってくれるのと言つたら、月謝袋にシールを貼つて終わりとつことになりました。さてこの展開どうなることが、この先おたのしみ。

#### 4月のキャッチコピー

歩きながら幕の内弁当を食べている人

百年前も百年後も我存在せず

浮遊ベツト